



公益社団法人日本臨床細胞学会
2019年度第2回理事会 議事録

日時：2019年6月9日（日）07:30～08:30
場所：京王プラザホテル（南館4階 扇）

役員総数：42名（理事 39名、監事 3名）

出席総数：理事 39名

（理事）青木 大輔，石井 保吉，板持 広明，伊藤 潔，伊藤 仁，井上 健，伊豫田 明，植田 政嗣，榎本 隆之，大平 達夫，小笠原 利忠，岡本 愛光，小田 瑞恵，加藤 久盛，川本 雅司，小松 京子，齋藤 豪，佐藤 之俊，生水 真紀夫，進 伸幸，竹島 信宏，田畑 務，都築 豊徳，内藤 善哉，中村 直哉，羽場 礼次，廣岡 保明，藤井 多久磨，前田 一郎，松浦 祐介，三上 芳喜，宮城 悦子，森井 英一，森谷 卓也，矢納 研二，横山 正俊，横山 良仁，若狭 朋子，渡利 英道

（監事）長村 義之，佐々木 寛，土屋 眞一

（総務委員会旧幹事）星 利良，三宅 康之，山下 博，和田 直樹

（総会議長副議長）加藤 一喜，新井 正秀

（名誉会員）加来 恒壽，覚道 健一，柏村 正道，紀川 純三，小塚 正雄，坂本 穆彦，西谷 巖，野田 起一郎，長谷川 壽彦，東岩井 久，平井 康夫

（会計士）中田 ちず子

報告事項

開会の辞（青木大輔）

2015年度～2018年度、2期4年を振り返る挨拶が行われ、方針として、特に会員との密なコミュニケーションや学会運営の効率化（収集した会員メールアドレスを利用した電子メールの活用など）を重視してきたことが報告された。その他、ICC 2016の開催、専門医制度の整備、学会主導の臨床試験の推進についての成果報告も行われた。そして、今まで各先生方からいただいた御協力・御支援に謝意が述べられた。

第60回日本臨床細胞学会総会春期大会会長挨拶（竹島信宏）

挨拶が行われた時点で参加人数約6,000人と既に盛会であった。

理事長選任・副理事長選任・各種委員会委員長選任の報告および理事長・副理事長挨拶 なお、以下のとおり満場一致をもって承認された。

理事長に佐藤之俊 理事、副理事長に川本雅司 理事（事務局運営、編集、渉外）、齋藤豪 理事（総括、財務、専門医制度、専門医、臨床研究）、中村直哉 理事（認定試験、検査士、教育）、森谷卓也 理事（学術、国際交流、IAC）が選任された。理事長・副理事長から挨拶が行われた。そして、各種委員会委員長の選任についても承認された。委員会と委員長は次の通りである。

<常置委員会>

総務委員会：森井英一 理事、学術委員会：前田一郎 理事、計理委員会：岡本愛光 理事、編集委員会：矢納研二 理事、細胞診専門医委員会：植田政嗣 理事、細胞検査士委員会：加藤久盛 理事、教育委員会：生水真紀夫 理事、渉外・広報委員会：小田瑞恵 理事、国際交流委員会：榎本隆之 理事、制度審議委員会：宮城悦子 理事、情報処理委員会：伊藤仁 理事、施設認定制度委員会：廣岡保明 理事、細胞検査士資格更新審査委員会：羽場礼次 理事、社会保険委員会：若狭朋子 理事、地域連絡委員会：伊藤潔 理事

<理事長直属委員会>

医療安全委員会：藤井多久磨 理事、倫理委員会：竹島信宏 理事、利益相反委員会：板持広明 理事、臨床試験審査委員会：田畑務 理事

<理事長諮問委員会・ワーキンググループ>

IAC連絡委員会：青木大輔 理事、臨床試験ワーキンググループ：未定、細胞診専門医制度改革推進ワーキンググループ：植田政嗣 理事、肺がん学会とのワーキンググループ：渋谷潔 理事、ゲノム診療時代における細胞診のあり方検討ワーキンググループ：森井英一 理事、肺癌細胞診の診断判定基準の見直しワーキンググループ：佐藤之俊 理事、ゲノム時代における呼吸器細胞診検体処理の精度管理ワーキンググループ：佐藤之俊 理事

前回議事録について

2019年度第1回理事会議事録の確認が行われた。

業務執行報告（各種委員会申し送り）

各種委員会の業務執行報告・申し送りが資料を用いて行われた。社会保険委員会、地域連絡委員会、IAC連絡委員会からはそれぞれの委員長あるいは前委員長から口頭による報告・申し送りも行われた。

(1) 社会保険委員会（若狭 委員長）：2019年6月23日、診療報酬改定提案書について内保連のチェックを受けてきた（若狭 先生・稲山 先生・佐藤 先生・青木 先生）。2019年7月末には厚生労働省のヒアリングに若狭 社会保険委員会委員長と佐藤 理事長が行く予定である。

(2) 地域連絡委員会（廣岡 前委員長）：細胞診に関する公益事業（市民公開講座等に対する経費支援）の募集締め切りは2019年7月末である。

(3) IAC 連絡委員会（長村 前委員長）

(a) Acta Cytologica のインパクトファクターが来年から復活する。

(b) 国際細胞学会 ICC シドニー（2019/5/5～2019/5/9）で、2022年 ICC の日程と場所が2022年11月14日～19日、米国ボルチモア市に決まった。2022年のJSCC 秋期大会の開催日程を2022年 ICC の日程から2～3週間ずらすのが望ましく、少なくとも1週間はずらす方針が確認された。

(c) 第42回ヨーロッパ細胞学会 ECC の日程と場所は16-19 June 2019 Malmö, Sweden で、16日にCompanion Meeting Japan が行われる。新たな肺癌細胞診判定基準・reporting system を提唱・発表する（肺癌細胞診の診断判定基準の見直しに関する合同ワーキンググループ 佐藤先生）。

(d) 北米病理学会で Sunday, 17. March 2019, 1:30-5:00PM, IAC companion meeting at USCAP 2019 を行った。

(e) IAC-CAP Digital Cytology project について、スライドの Scanning が終わり Johns Hopkins で annotation の作業を行っている。間もなく完成の見込みで、終了次第” Underserved regions” に向けて Website に公開予定である。

(f) IAC council に青木 理事が加わった。

2019年～2020年度常務理事会・理事会スケジュールについて

2019年～2020年度常務理事会・理事会スケジュールの確認が行われた。

庶務報告・会員情報（2019年5月23日現在）報告（森井英一）

全会員数：12,599名

（正会員 5,639名、準会員 6,742名、名誉会員 41名、功労会員 159名、図書会員 18件）

細胞診専門医および細胞診専門歯科医数：2,956名（実数）

（認定：細胞診専門医 3,612名、細胞診専門歯科医 74名）

FIAC：106名 MIAC：30名

細胞検査士数：7,718名（実数）（認定 10,149名）

CT(IAC)：4,467名

物故会員（2019年4月16日～2019年5月23日）

正会員 宮川 潤（みやがわ じゅん）殿

（財）神奈川県予防医学協会 病理検査課

黙祷

審議事項

会員資格停止者について

会費3年滞納者の会員資格停止・退会が可決された。

会員資格復会希望者について

会費滞納により退会処分されたが、復会願いを提出してこられた1名の方について、復会が可決された。

2017年度の収支相償判定における余剰金について

公募研究費・学術研究費として余剰金410万円を特定費用準備資金として計上することになったが、この件を学術委員会案件とすることが可決され、用途については学術委員会で検討することになった。

秋の理事会について

日本臨床細胞学会秋期大会開催前日の金曜日夕方に理事会を行うことについて、本理事会で予備アンケートをとったところ、本理事会参加者のうち30名が金曜日夕方に行ってもよいと回答した。本件を学術委員会の継続審議案件とする。

理事候補懇談会改善案について（総務委員会より）

懇談会の出席者を現理事長、全国ならびに地方選出理事候補と、理事長候補が必要と認めた若干名にする。そして、その後の理事会に理事候補者が陪席することとすれば、業務理解につながるるとともに、懇談会と理事会で同一話題・議題の重複を回避でき、会議時間短縮、効率化にもつながる。これなら、現在、午前に懇談会、午後に理事会を行っているが、午前に懇談会で検討する事項が短くなって、全体的な時間短縮を図れる。この内容が可決された。

2021年度（第60回）秋期大会長選出について

廣岡保明 理事が承認された。

2022年度（第63回）春期大会長選出について

岡本愛光 理事が承認された。

※学術集会長候補者の選出メンバーは以下のとおりである。

理事長 佐藤之俊

前理事長 青木大輔

副理事長 川本雅司、齋藤豪、中村直哉、森谷卓也

学術委員会委員長 前田一郎

(役員等選任に関する施行細則第2条より)


その他

ゲノム医療時代の到来をふまえてゲノム医療に関するワーキングに力をいれること(理事長より)、そして、デジタル化時代・AI時代の到来をふまえてプログラミングを理解できる人材の育成に力をいれること(学術委員会より)が提案され、これらの方針が可決された。

以上で本理事会の議題が終了し、齋藤豪 副理事長の閉会挨拶をもって本理事会を終了した。


2019年 7月 23日

この議事録が正確であることを証します。

理事長 佐藤之俊 

監事 佐々木寛 

監事 土屋真一 

監事 長村義之 

Handwritten text in the upper section of the page, consisting of several lines of cursive script.



Handwritten text in the middle section of the page, continuing the cursive script.



Handwritten text in the lower-middle section of the page.



Handwritten text in the bottom-left section of the page, including a signature and possibly a date.

